



鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第80号

2014年(平成26年)3月19日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
火曜を除く平日9:00~16:00
<http://www.kifa.gr.jp>

外国人と市民の
交流拠点づくり

「多文化共生推進センター」

開設の意義を行政担当課にインタビュー

日本人も外国人も地域の一員として共生し合う応援拠点「多文化共生推進センター」——現在、市内には1,000人を超す外国人が暮らしています。また、成田国際空港との交通アクセスの便から、外国人来訪者も増加傾向にあります。市では、関係団体とのネットワークづくり、市民が直接交流できる場の提供をめざし、拠点センターの開設の準備を進めてきましたが、きらり鎌ヶ谷市民会館内に異文化が行き交う交流と共生の拠点づくりに向けて「多文化共生推進センター」が4月7日(月)にオープンします。

広報委員会ではオープンに先駆け、センターの目的、機能、目指す効果など、担当部署である企画財政課にインタビューを実施しました。

「KIFAの活動ノウハウに期待」

＜多文化共生推進センターの機能＞ 9時から22時までオープン、9時から17時までスタッフ(通訳ボランティアを含めた通訳)が常駐し、在住外国人への生活に根差した情報、日本語講座、国際交流イベント情報、姉妹都市情報提供など、市民が学びや生活の中で直接交流できる応対の場となります。日本語だけでなく外国語による窓口の応対も行うことになっています。

＜多文化共生への課題と期待＞ 在住外国人の情報が入りにくく、間接的な情報は得られるものの、直接、外国人が市に相談に訪れないため、実体がつかみにくい状況にあります。そのため起きている、起こりつつある課題や問題点に直接結びついていない現実があります。市ではこの度、センター設置に伴って在住外国人にアンケートを実施し、外国人が何をニーズとしているか集約し、センターの運営に活かしていくとしています。

さらに、センター設置によって、関係団体間の交流、



きらり鎌ヶ谷市民会館の外観(多文化共生推進センターが併設される)

多文化共生関連の情報の集約化、発信によって、外国人来訪者と日本人の交流の場を誘引し、交流を促進することによって、市内の実体、課題、問題点の把握ができることを期待しています。

＜KIFAへの期待と連携＞ 市として最も緊急課題としては、外国人への災害時防災体制の整備で、2011年3.11を教訓とした外国人への対応、体制づくり。東京オリンピックに向けた外国人来訪者促進のアイデアなどを協働で行っていききたい。とりわけ在住外国人に関わる問題、課題は生活の中のことなので、行政だけではできないことも多く、多種多様な活動を長年にわたり積み上げてきたKIFAのノウハウを活かし、行政との協働でバックアップをして頂き、進めていきたいと話されました。

KIFAとしては、センターにおける在住外国人へのワンストップサービスの早期実現。さらには、在住外国人に留まらず、東京オリンピックに伴う外国人の往来も増えることが予想され、成田、羽田2大空港の中間点の地の利を活かした鎌ヶ谷市が、「日本語学習をはじめ、外国人交流の場」として親しみやすい都市環境としていくことをお願いしました。(なお、センターでは年2回、市民向けに、イベント情報など広報誌を発行するとしています。)

●日本語スピーチ発表会に参加

柏市国際交流協会主催の第15回日本語スピーチ大会が2月22日(日)に行われました。KIFA日本語教室からベトナム人のレタイン・フェインさん(写真)が参加しました。テーマは「マイ・ホームカントリ」。スリムなスタイルに似合う民族服アオザイを着てスピーチしました。来日して7カ月ですが「つ」や「さ」など発音の確かさ、興味ある内容など参加者の賞賛を受けました。スピーチ内容はHPに掲載しました。



●2013年度スマイリーキッズ閉講式

今年度は9月からスタートした「子ども英会話教室」(スマイリーキッズ)の閉講式が3月15日(土)、2クラスが合同で最終の授業と閉講式を行いました。

3人の講師が出席、若いボランティアや部会スタッフ、保護者も参加しました。それぞれの講師による最終授業が行われ、子どもたちには修了証が贈られました。

今年度は低学年の児童が多く、聞き取りと発音中心の授業でしたが、皆熱心に楽しそうに受講していたようです。新年度の再会を約束しました。

ペルー料理とダンス「マリネラ」

家庭料理講習会・交流カフェ



ジャガイモの味付けが大事

珍しい食材や料理を通して外国の食生活を体験する「外国家庭料理講習会」、今回はフリオ・ペーニャさん、ロサリオ・カメコウさんご夫妻による「ペルー料理・交流カフェ」を2月16日（日）、東初富公民館において開催しました。調理体験参加者、会食パーティ参加者を含め、31人が出来上がった料理をいただき、ペルーの伝統舞踊のマリネラを鑑賞しました。

★食材の中心はジャガイモとトウモロコシ

調理メニューは①Causa de pollo（カウサ デポヨ）②Chupe de camarones（チュペ デ カマロネス）③Budin de manzana（ブディン デ マンザーナ）④Chicha morada（チチャ モラダ）の4品です。

調理実習が始まりました。ときどきフリオさんからペルー産の食材について説明があり、ジャガイモは日本のものより大きく、種類も



味を確かめながら会食

3000種くらいある。生活の主食はジャガイモとトウモロコシの料理が中心になるなどの解説が入ります。カメコウさんは、それぞれ調理台を廻りながら、調味料の按配を加減しています。きれいな紫色のチチャ モラダ ジュースが出来あがって、少し遅れましたが会食パーティに移りました。

★情熱的なペルーの民族ダンスで盛り上がる

それぞれが席について、テーブルには出来上がった料理が切り分けられたり、盛り付けてあります。木下健治副部会長の司会で「交流カフェ」フェスタが始まりました。

フリオさんがプロジェクターによる映像でペルーの食材や料理、生活などの紹介をしてくれました。ペルーの家庭料理は「安くて美味しい」のが特長だという。ペルーには紫、白、黄

色などのトウモロコシがあり、ジャガイモ、ツナ、鶏肉、カマロネ（海老）をよく使うという。

続いて南米3大ダンスに数えられているペルーの伝統舞踊「マリネラ」(Marinera)が、柏市のアカデミア「ソル イルナ」の須原ホセ、アナさんと生徒6人によって華麗に優雅で、華やかな踊りが繰り広げられました。ペアで踊られた須原さんのダンスは、素晴らしい愛の表現で魅せられました。



「ソル イルナ」の須原さん、生徒さんによる舞踊・マリネラ



多文化共生のきっかけづくりは国際交流活動から

<詳細はKIFAホームページ<http://www.kifa.gr.jp/>をご覧ください>

世界の生活文化の違いを知る

外国文化に親しむサロン

世界各国の文化・生活を知る、日本の生活文化との違いを知ることが国際理解の始まりです。海外でなくても、身近な近隣居住者にも多くの外国出身者が生活するようになりました。KIFAでは以前から外国の生活文化を知る催しを行ってきました。4月にオープンする《多文化共生推進センター》の目的である「交流」と「共生」の理解に役立つものと自負しています。

1月19日（日）まなびいプラザの会場にアメリカ、韓国、ロシア、中国、ペルーの5カ国出身のゲストを招いて「日本の常識、世界の非常識」について話してもらい、その後、椅子を車座に並び替えて全員で楽しくディスカッションを行いました。

★アメリカ文化はビジネスに根ざしたのも

——アメリカ・Adam Drnakさん

<テキサス州出身で公立小中学校英語教師>
日本の学校では、掃除を先生と生徒がやっていますが、アメリカではプロの仕事です。つま

5人のゲストをお招きしました（スピーチの順です）



り労働として対価が生じ、生徒たちがすることはありません。日本文化は気持ちが第一に対し、アメリカ文化はビジネスに根ざしたものではないかと思います。

★日本の相撲は土俵空間で1本勝負が潔さよい

——韓国・金 秀妖（キム スヨン）さん

<KIFAのハングル講座講師>

韓国にも「相撲」の文化はありますが、土俵があっても勝敗に関係なく、倒されるまで行きます。偶然の勝敗もあるので5本勝負し3本先勝で勝ちを決めます。日本では土俵という枠の中だけが、運動空間で1本勝負という潔さがあり迫力が楽しめますね。

★日本人は良心的で礼儀に正しい

——ロシア・ペーレゾフスカヤ ナタリアさん
<来日11年、通訳や翻訳で活動的な女性>

日本のお弁当の文化も日本独特のもので素晴らしい。携帯電話を失くしても、日本では90%戻るし財布でも75%は戻るが、ロシアでは戻らない確立の方が高い。ロシアでは「ありがとう」と「ごめんなさい」の言葉は聞かれない。

★子どもの健康の考え方が違う

——中国・劉 興滯（リュウ コウケツ）さん
<北京出身>

日本へ来て驚いたのは幼稚園で子どもたちに冬でも半袖、短パンで遊ばせていることでした。中国では親から抗議が出ます。一人っ子なので子どもは過保護になっているのです。

★将来よりも今日を大切に楽しむ

——ペルー・フリオ ペーニャさん

<陽気でサルサダンスが得意>

ペルー人のあいさつは濃厚です。ハグは当たり前、両頬キスも普通です。日本人のように将来を考える計画性がありません。大切なのは今日の幸せと楽しみです。今日だけ良ければいいので自殺は殆どありません。自分を褒めることが得意で日本人のような謙遜がありません。



司会の高橋さんとミルズさん



アネッテさんのドイツブレス



おかゆが人気だった香港ブレス

国際屋台村で「世界の味」に親しむ

KIFAパーティ 2013

「屋台めぐり」で交流の輪——2013 KIFAパーティが11月17日（日）、鎌ケ谷市総合福祉保健センター6階の大会議室で開かれました。



賑わうパーティ会場

今年のメインテーマは「世界の屋台を楽しむ」です。司会役には、初めて現役の女子大生・高橋瑞希さんと鎌ケ谷市立小学校英語講師（ALT）のクリス ミルズさんが担当しました。

来賓を代表して清水聖士市長から「日常的な交流が国際理解の原点」ですと、多岐にわたるKIFA活動への感謝と祝辞をいただきました。さらに、芝田裕美・市議会議長からも4月にオープンする「多文化共生推進センター」を存分に活用していただくことを提案していきたいと考えていますと励ましの祝辞が述べられました。この他、川西八郎・鎌ケ谷市教育長、中山睦朗・柏市国際交流協会会長をはじめ、近隣市の流山市、我孫子市、白井市の国際交流協会の代表者、語学講座講師の方々が来賓として出席していただきました。

★賑わう国際屋台村 来賓あいさつと紹介のあと会場は、交流の広場になりました。目当ての屋台の前にはチケットを手にも列が出来ています。屋台は市内で営業している事業者や個人による手作りの屋台など韓国、中国、インド、香港、ドイツが店開きしていました。スマイリーキッズもゲームコーナーを開設しています。

会場で屋台を廻った参加者に聞いてみると、韓国のチゲ、インドの温かいナンとキーマカレーが好評のようでした。香港のおかゆもいとお味のようでした。一番の人気はアネッテさんのドイツ屋台でした。本国から直接購入してきたお菓子、小物雑貨や手作りクッキーが満載。人だかりがいつまでも続いていました。

★ラテンのリズムとダンスが会場を包む 舞台パフォーマンスは、ペルー出身のフリオ・ペーニャ、ロサリオ・カメコウさんによるラテンダンスです。息の合った見事な振りで軽やかにセクシーに踊って見せてくれました。

続いて藤原万喜子さんによる二胡演奏です。ラテンの陽気さとは違った、哀調を帯びた音色が響きました。さらに千葉大の韓国留学生らによる韓国の伝統芸能・サムルノリも始まりました。地を表す打楽器と強烈な独特のリズムが会場を圧しました。パーティは5カ国の屋台の味と3カ国の音のリズムが国際色豊かに染め上げフィナーレへと向かい、鎌ケ谷市の歌「きらり鎌ケ谷」を全員で歌い閉幕となりました。

3人の先生サンタと楽しむ

スマイリーキッズのクリスマス会



ゲームや歌で楽しく過ごす

外国人講師の指導によるKIFA小学生英会話教室「スマイリーキッズ」では、2013年12月14日（土）クリスマス会が行なわれました。

講師陣、受講の小学生、ボランティアスタッフ、保護者の43人が参加しました。

「皆さんこんにちは。みんなでサンタさんと呼びましょう。Please come in, Santa Clause!」ドアが開いて赤い服を着て袋を担いだサンタクロースに扮した3人の講師陣が登場、子どもたちと英単語ゲーム、先生方のお国のクリスマスのお話を聞いたり、クリスマスソングを皆で歌いクリスマス会を楽しく過ごしました。



ハイチュウ&CYCLO講演コンサート

ベトナムの音楽を聴いたことがありますか——「世界を知る会—ベトナムの風」が2月2日（日）、総合福祉保健センターにおいて開催されました。日本で活躍するベトナム人シンガーのハイチュウ（Hai Trieu）さん、彼がボーカルを務めるバンドCYCLOを招いて、トークと音楽を楽しみました。

世界を知る会「ベトナムの風」

前半はハイチュウさんによるトークです。民族衣装のアオザイ姿で登場すると、大きな拍手が沸き起こりました。ハイチュウさんが「ハイチュウです。お菓子の“ハイチュウ”と同じで覚えやすいでしょ！」と自己紹介すると、会場が一気に和みました。

●ベトナムのことを知って欲しい思いが活動の原点

京都で日本語を学び、日本の文字に魅かれたことがきっかけで、日本人にベトナムのことを知って欲しいとの強い思いが、日本での滞在、現在の活動に結びついたことを、流暢な日本語で話し始めます。交流の始まりはあいさつから、シン・チャオ＝こんにちは、カム・オン＝感謝しています、タム・ビット＝さようなら。ベトナム語によるあいさつ言葉を紹介します。会場も一緒になって「シン・チャオ」。

ベトナムの正式名は「ベトナム民主共和国」という社会主義国でハノイが首都になっていること、気候に恵まれコメが年に4回も収穫できること、食文化、経済、観光など、プロジェクターの画像と共に説明されました。

●初めて聴くベトナムの歌、どこか懐かしい旋律

後半は、ベトナムの少数民族の歌 Loi toi ru（僕の愛



歌と音楽で文化交流活動をしているバンドCYCLO

のこもり歌）から始まりました。初めて耳にする曲ですが、どことなく懐かしい旋律とハイチュウさんの優しい穏やかな歌声が、会場に響きわたります。続いてパラソンの響き、Giac mo trua（昼間の夢）などベトナム少数民族の歌が続きます。さらにCYCLOによる篠笛、ギター、ベース、パーカッションのバンド演奏も披露されました。

歌うたびに社会の中で人と人が手を差し伸べあい、救う姿を想う「手の歌」も披露され、最後は、会場のアンコールに応え、Beginの「島人ぬ宝」をベトナム語で歌い上げました。ハイチュウさんの歌に合わせて参加者が日本語で口ずさみ、まさに会場全体が「島人ぬ宝」のメロディーで、ベトナムと日本の懸け橋を強く感じた締めくくりとなりました。



（写真左からハングル・金秀妍先生、中国語・胡丁毅先生、英語・デレック・スミス先生。上の写真は、それぞれのクラスの成果発表）

語学研修講座合同閉講式、成果発表会

2013年度の研修部会語学研修講座の合同閉講式・学習成果発表会が2月2日（日）、総合福祉保健センター6階大会議室において行われました。英語、ハングル入門、初級、中国語入門、初級の3講座、5クラスの受講生68人が出席しました。3人の講師には各クラスの代表から感謝を込めて花束が贈られました。

●中国語——入門、初級2クラス＜胡丁毅（フーディンイー）先生＞入門クラスは発音が綺麗にできるようになりました。初級クラスは会話も弾んでいました。

＜成果発表会＞2クラス合同でお馴染みになった「四字熟語意味当てクイズ」と歌。

●ハングル——入門、初級2クラス＜金秀妍（キムスヨン）先生＞クラスに行く日がいっぱい嬉しく、皆さんに会えることが楽しみになりました。

＜成果発表会＞人気講座らしく元気いっぱい歌ってダンス。童謡など3曲をハングルで歌いました。

●英語——＜デレック・スミス先生＞人は間違えることも多いが、間違いを通してステップアップするでしょう。ミスを恐れず、積極的に英語で話してください。

＜成果発表会＞「r」と「l」の発音練習に有効な「row row row your boat」など4曲の歌を発表しました。

編集後記

2013年度最後のKIFA Plazaをお届けします。多くはKIFAホームページで詳細は掲載されています。近年はHPやSNSなどデジタルメディアによる情報交流が多くなっています。当協会でも広報活動ツールについて、印刷物中心かWebか再検討が必要です。今年度の取材・編集は平田真裕美、藤本克代、田崎康雄が担当しました。HPの更新は竹内雄二が受け持ちました。